

## 環境基法計画に向けた検討会

2022/12/15 会議用メモ：

大阪大学 社会経済研究所 堀井 亮

### 基本的視点

- ・ 幸せさ = 経済厚生。経済厚生の中に、GDP も環境も含まれる。完全な指標はないが、経済厚生を上げることが目標。
- ・ 環境 = そこにいる人が享受できるアメニティ 魅力ある空間、快適な気温、災害が少ない、安全性など。
- ・ 環境にはグローバルな環境（地球環境）、ローカルな環境（国ごと、地域ごとの環境）がある。
- ・ グローバルな環境：地球環境については、CO2 等温暖化対策は重要。プラネタリーヘルスの分析は素晴らしく良い。ぜひ次期基本計画に反映させてほしい。
  - 国際協調に繋がり、他国との良好な関係は、日本の安全保障にもつながる。
- ・ ローカルな環境：それに加え、日本という国の環境、日本の地域や一人一人の生活の環境についても、考えることが重要。「美しい日本」「住みたい日本」「幸せな日本」「安全な日本」国際比較したときに、本当にそうか？
  - ほかの国に比べてどうか、客観的・謙虚な比較が必要。
- ・ 30年前は、経済成長は好調だが、それだけでなく、環境もという視点だった。その後30年間成長に失敗し、他の先進国に大きく離された。環境も以前より良くなったが、国際的にみて遅れているのではないか。
- ・ 国際比較で見たとき、一人あたりの所得と環境の質は正の相関。途上国のほうが環境水準は良くない。日本は先進国から途上国に転落しつつある。
- ・ 経済成長の停滞が、環境改善の動きの遅さにつながっているのではないか。同時に、環境の海外に対する見劣りが、経済成長の停滞にもつながっていないか。環境と経済成長の相互の連関を認識して、同時に改善する win-win の視点が必要。
- ・ 環境を高めることで、どのように成長につなげるか？ 次の議題の、方向性についての視点（次項）で検討。

## 方向性についての視点（環境⇔成長の関係 経済厚生を高めるには）

- ・ 長期的な経済成長は、技術進歩・イノベーション・人的資本（知識）の蓄積で進む。世界的人材獲得競争の時代、世界から能力がある頭脳・人材が集まらなければ、イノベーションも進まない。
- ・ Google 等、世界技術を引っ張る企業は、企業内の環境アメニティもよく、才能ある人材を引き付けている。日本の経済成長を進めるには、日本の環境的魅力を高めることも重要
- ・ 日本が外国人労働者を選ぶのではなく、世界の有能技術者から選ばれる国にならないと未来がない。現在、日本は「安い国」として観光客は増えているが、働く国、住む国としての魅力は高くない（中国・韓国など一部を除き、外国人定住者少ない）。給料が安いのが主要因だが、環境面で惹きつけることも重要。
- ・ 定量化できないような街づくり環境・デザイン・統一性も重要（客観的数値である高さ規制だけでなく、魅力あるデザインである必要がある。）
  - TED=Technology Education Design という演説会のように、デザインは、技術・教育と並んで重要視されている。
- ・ 自然へのアクセス。山岳や海→日本が他の国より優位なポテンシャル。登山道や海岸の整備・環境維持など、有効活用したい。
- ・ 社会資本整備は？ 例：電線地中化 東京都知事はカイロ大学卒業。外国から来た人が日本をどう見るか。社会資本整備も見劣りしているのではないか。
- ・ 水処理の技術、普及は？ 河川や海のきれいさはどうか？（汚水処理人口がまだ100%でない）ヨーロッパではずっと前から100%。フランス第2の都市のマルセイユでも、海は石垣島並みに非常にきれいである。大阪湾・東京湾と比べてどうか。
  - 海の貧栄養価の問題もあるが、環境資源としての価値を重視すべきでは。
- ・ 日本は快適か？ 住宅部門の環境技術はどうか。ガラパゴス化してないか。住宅の断熱の貧困
  - いまだに冬寒く、コタツの家が多い。アルミサッシは中国でさえ禁止。東京よりずっと寒い北欧のほうが家の中は暖かい。既存ストック住宅の断熱化は、エネルギー削減と同時に、日本の住環境改善にも重要。

## エネルギーについて

- ・ 環境と環境の間のトレードオフを、日本全体・地域間でどのように調整するか。風力発電や太陽光発電→クリーンとはいえ、山を崩したり、騒音などが発生することもある。外部業者による風力発電立地に対する、地方自治体の反発もある。しかし日本全体ではある程度必要。
- ・ 持続可能エネルギーとしての原子力の位置づけ（EU）にたいし、日本はどうか。